

特 259

577

老
松

昭和改訂版
内
四



始



老松

(梗概) 京都に梅津何某と言ふ人あり、或夜の靈夢に北野天神の御告あり、
「**老松**」思ひ立ちて筑前太宰府の安樂寺に詣てぬ。恙なく太宰府に着
き、**老松**たる松の傍に麗しき紅梅の咲き満ちたるを見、折節垣結ひ回

らせる當りに老若二人の男に飛梅とは何れの木ぞと問ふ二人の男は我
等はたゞ常に紅梅殿とこそ崇め奉れとて其梅を教へり上、傍らの**老松**
も亦天神の愛で給ふ木にて、共に此所の末社として祭られある由を告

げ尚梅松二本の勝れたる木なる古事來歴を細々と説きて失せぬ。斯て
夜に入り老松の神靈顯れて君を守り世を壽く莊嚴なる舞などを舞ひ、
靈夢の今更にあらたかなることを示しぬ。



シテ 老翁

ツレ 男

後シテ 老松の神霊

ワキ 梅津何某

ワキツレ 従者二人

所 筑前國太宰府

季 春

老松

つぎ次 實治つぎ次まつぎ上れるつぎ上田つぎ上方つぎ上此つぎ上潤つぎ上くつぎ上園つぎ上のつぎ上戸つぎ上さつぎ上と

でつぎ上通つぎ上いつぎ上んつぎ上 抑つぎ上是つぎ上のつぎ上都つぎ上のつぎ上西つぎ上梅つぎ上津つぎ上此つぎ上何つぎ上某つぎ上

とつぎ上いつぎ上家つぎ上事つぎ上也つぎ上 梅つぎ上とつぎ上我つぎ上小つぎ上野つぎ上をつぎ上信つぎ上トつぎ上常つぎ上小つぎ上

先つぎ上をつぎ上守つぎ上むつぎ上びつぎ上ひつぎ上怨つぎ上ふつぎ上亦つぎ上取つぎ上乃つぎ上志つぎ上まつぎ上るつぎ上友つぎ上につぎ上家つぎ上をつぎ上

伝つぎ上せつぎ上ハつぎ上筑つぎ上世つぎ上業つぎ上安つぎ上樂つぎ上者つぎ上につぎ上系つぎ上れつぎ上とつぎ上あつぎ上らつぎ上たつぎ上よつぎ上靈つぎ上

着を世帯りては程小只今九割乃括よ越
 手わき上野ついでの通ちかる風かぜ此こく音ねも
 吹井乃浦づしむぬ石のやよりかきより
 一実定いちじつぢょうちまちまの括くわくのの括くわく達たつたる括くわく磨ま
 深室乃とも君さぬくの物妻お母を
 志ぬひれ筑つくは志しの地ちなも志しふふなり〜

志あまの程小筑は志安樂寺あざなの志しなり人ひと

てあまの謂いを志しるふまゐるは志し 程ついでづし
 一梅乃花いちばい等らまも志してぬふてふ志し此こ情じやう也なり
 志ついで乃の志しも志して十返りじゅうへん涼すずき録ろく也なり
 志あま風かぜを志して志しふひ〜年の志しとり乃の松まつ
 乃の戸とよよ春はるを志して志しふ〜るる方かた此こ

草亦も^ニ神の^ニ惠ふ^ニあび^ニて^ニや^ニあ^ニら^ニめ^ニき^ニ
わ^ニは^ニ盛^ニる^ニも^ニ歩^ニみ^ニを^ニた^ニら^ニぶ^ニも^ニあ^ニら^ニず^ニ乃^ニ
光^ニ長^ニ深^ニき^ニ春^ニ此^ニ日^ニよ^ニ松^ニが^ニ祢^ニの^ニ足^ニ間^ニを^ニ
は^ニら^ニお^ニ昔^ニ遊^ニび^ニあ^ニぬ^ニ鳥^ニの^ニ乃^ニと^ニも^ニ実^ニ末^ニ
あ^ニま^ニや^ニげ^ニ山^ニの^ニ阿^ニま^ニだ^ニる^ニ音^ニ此^ニあ^ニる^ニえ^ニを^ニも^ニ
於^ニ情^ニま^ニる^ニ花^ニ盛^ニる^ニ手^ニお^ニや^ニさ^ニる^ニと^ニと^ニる^ニ梅

乃^ニ花^ニが^ニま^ニい^ニさ^ニる^ニか^ニま^ニり^ニん^ニ梅^ニの^ニ花^ニ垣^ニを^ニか^ニ
ん^ニい^ニは^ニき^ニ成^ニ老^ニ人^ニよ^ニ為^ニぬ^ニき^ニ事^ニ此^ニい^ニ
世^ニ方^ニの^ニ事^ニに^ニい^ニら^ニ何^ニ事^ニに^ニい^ニそ^ニ世^ニ新^ニ

よ^ニを^ニひ^ニて^ニ飛^ニ梅^ニと^ニい^ニつ^ニま^ニ此^ニあ^ニを^ニ中^ニい^ニれ^ニ
あ^ニら^ニも^ニあ^ニら^ニ我^ニら^ニ只^ニ紅^ニ梅^ニ殿^ニと^ニそ^ニあ^ニら^ニ
中^ニい^ニら^ニ実^ニ紅^ニ梅^ニ殿^ニと^ニも^ニあ^ニら^ニ中^ニい^ニれ^ニ

や赤くも清い海菜のよもぎも今は園子花
 来り神木と成給へば家でも物あまら
 らずしきいへ又こまに成木をば何と
 以後どとぐめていそ わか 実も是も増ゆひ
 まり白木綿を掛く事たり よ いく松は
 老松の して まぐもん給ひたり つぎ 紅梅

履は清い後せよもも美木此花も
 も花もなるに引いて 目下 とは我さよ
 光り身の影もあるびくるまつ人の影淋
 きよ木本を志松と後せぬ神も
 おそろしや わか 先社壇の神を降と
 水子戯こする青い山あり 同上 隣月松柏林中

小映^ト一^ノ南^ノよ^ノ寐^トこ^ノる^ノ瓊^ノ門^トあり^ノ斜^ト日^ト竹^ト
 竿^ト此^トも^トよ^トま^トき^トり^ト 左^トよ^ト花^ト園^トの^ト林^ト塘^ト
 あり^ト 翠^ト帳^ト紅^ト圍^トの^ト粧^トひ^ト首^トを^ト忘^トれ^トず^ト
 右^トよ^ト古^ト寺^トの^ト回^ト廊^トあり^ト晨^ト鐘^ト夕^ト梵^トの^トむ^ト
 ね^トた^トり^トあ^トら^トし^トぬ^ト 曲^ト下^ト 実^トや^トん^トた^トま^トき^ト草^トま^ト
 たり^トと^ト中^トせ^トた^トり^トる^ト浮^ト世^トの^ト理^トり^トを^トい^ト志^ト信^ト

一^ノ知^トべ^ト一^ノ法^ト来^ト此^ト中^トよ^ト杏^ト梅^トハ^ト殊^トよ^ト
 天^ト神^トの^ト法^ト自^ト覺^トも^トく^ト紅^ト梅^ト殿^トも^トを^トね^トも^ト
 皆^ト来^ト社^トと^ト現^トト^ト強^トへ^ト里^トサ^トれ^トハ^トけ^トあ^トし^ト川^トの^ト
 本^トも^ト我^ト躬^トより^トも^トた^トを^ト漢^ト家^トよ^ト徳^トを^トあ^ト
 ら^トハ^ト一^ノ唐^トの^ト帝^ト乃^ト清^ト時^トハ^ト國^トよ^ト文^ト学^トよ^トさ^ト
 り^トん^トた^トれ^トハ^トも^トの^トち^トを^トま^ト一^ノ白^トひ^ト帝^トより^ト

はきりまりヤラ文学ウツをきこれウツが白ウツひもウツるウツ
そまも涼ヤラくヤラにヤラ相ヤラしそ文ヤラを好ヤラむヤラまヤラるヤラ
は里ヤラ連ヤラ梅ヤラをヤラ好ヤラ文ヤラ本ヤラとヤラ付ヤラれヤラれヤラ相ヤラ
相ヤラをヤラ太ヤラ史ヤラといヤラふヤラ事ヤラハヤラ秦ヤラのヤラ始ヤラ皇ヤラ此ヤラ以ヤラ權ヤラのヤラ
時ヤラ天ヤラ俄ヤラよりヤラ手ヤラ暑ヤラきヤラりヤラ大ヤラるヤラ頻ヤラりヤラ小ヤラ降ヤラしヤラ
くヤラ帝ヤラるヤラをヤラ清ヤラんヤラとヤラ小ヤラ相ヤラ乃ヤラ陰ヤラふヤラよりヤラ終ヤラふヤラ

は相ヤラ俄ヤラよりヤラ大ヤラ本ヤラとヤラるヤラりヤラ枝ヤラをヤラしヤラれヤラ葉ヤラをヤラ双ヤラ
へヤラ本ヤラのヤラ習ヤラ透ヤラ聞ヤラをヤラふヤラさヤラたヤラてヤラそヤラるヤラをヤラいヤラしヤラ
まヤラてヤラ里ヤラ一ヤラくヤラバヤラ帝ヤラ太ヤラ史ヤラといヤラふヤラ辭ヤラをヤラとヤラりヤラ終ヤラひヤラ
しヤラよりヤラ相ヤラをヤラ太ヤラ史ヤラとヤラ中ヤラ也ヤラ上ヤラりヤラ振ヤラりヤラ名ヤラをヤラ言ヤラふヤラ
本ヤラ松ヤラのヤラ花ヤラとヤラ子ヤラ代ヤラとヤラ行ヤラ来ヤラ久ヤラしヤラはヤラ垣ヤラ
守ヤラちヤラるヤラへヤラはヤラぬヤラるヤラへヤラやヤラ神ヤラハヤラ愛ヤラもヤラ同ヤラしヤラ

名乃あまのつらも紅乃花も松も花

よ万代のまとうや子世あ代れまとうや

わか上 嬉しきうもやしきうらババくけね陰み

揺わして風も唄く富乃時神乃院

をも待つてん 出欄 いくに紅梅殿今

あは稀人をば何とう慰めたまふるま

実めづらうにまもる梅もるそむ

松とても 名了そ老木の若みどり

かまみみ渡る神うぐう 子を視ひ舞

をまひ 舞樂をそなふる宮寺若

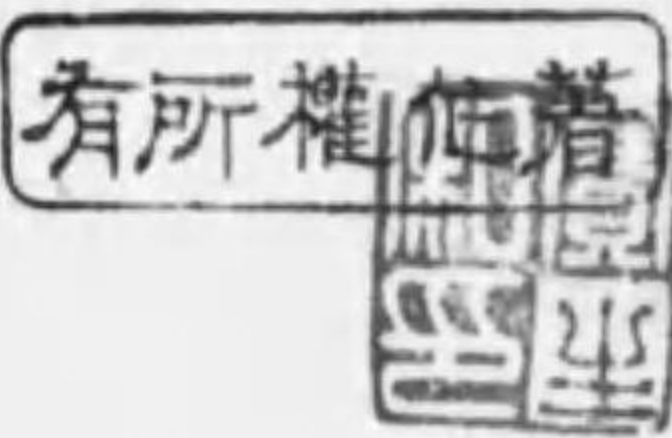
あうももちし河み難や 上 さい枝乃

はま枝の梢も若木の花れ神 是は老

老
 是此神松の 是は老來此神松也子
 世ふ八子代よさてき石の巖となりて昔
 乃むままきく 多昔此むまほぐ松竹
 日上一つて 上 鶴の赤上齡ひをさけるけ君乃行
 未る古きと 夜神説のつあをまる
 松風と梅も久しきまてそめでたれ

昭和十年十二月廿五日印刷
 昭和十年十二月三十日發行

定價金五拾錢



東京市下谷區上根岸町八十二番地
 著者 寶生新
 發行兼印刷者 江島伊兵衛
 發行所 下掛寶生流談本刊行會

終

